

登録コード	E2100900	開講年度	2026				
授業科目	歴史学基礎					担当教員	野口 舞子
英文授業名	Base of History					副担当	村石 正行
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・3時限		対象学生
講義室	教育M301 講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				・歴史学習の背景にある歴史学そのものの構造や方法論を理解し、歴史の授業構想に活かせるようになる（達成目標）。		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				・歴史学の研究にあたって不可欠となる知識を、日本史と外国史の双方にわたって習得し、併せてバランスのとれた歴史的な見方や考え方ができるようになる（達成目標）。 ・近現代の外国史学における考え方や方法、その成果を知り、歴史像が構築される手続きや発想を理解できるようになる（達成目標）。 ・日本史研究の基礎となる史料の分析方法や研究手法、現在までの歴史学研究のあり方を理解し、歴史分野の教育活動に活用できるようになる（達成目標）。		
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	現代社会の諸事象の由来を考える上で、歴史学は不可欠な学問である。本授業では、歴史教育を実践する際に必要となる歴史学の本質や方法論を理解し、歴史の授業に活かせる知識と思考力を身に付けることを目的とする。 外国史分野では、近代以降における歴史学の世界的な潮流をたどりながら、歴史像がどのように構築されているのか学び、歴史教育に活かす方法について検討する。 日本史分野では、日本における歴史研究の展開や、研究の土台となる史料の種類や研究方法、また現代社会における日本史研究の活用等について学び、授業に応用する力を養う。						
(5)授業計画	第1回：外国史学 歴史学とは 第2回：外国史学 歴史叙述と歴史学 第3回：外国史学 地域史の視点 第4回：外国史学 全体史の視点 第5回：外国史学 歴史学の手法を学ぶ：理論編 第6回：外国史学 歴史学の手法を学ぶ：実践編（演習） 第7回：外国史学 歴史学と外国史教育 第7回が終了した時点で、外国史分野のレポート提出。 第8回：日本史学 日本における近代歴史学の展開 第9回：日本史学 資料と史料 歴史学の基礎 第10回：日本史学 日本から見た世界 世界から見た日本 第11回：日本史学 地域史教材を授業に生かす 第12回：日本史学 現代日本史学の諸問題 第13回：日本史学 歴史の授業プレゼンテーション（実践と討論） 第14回：日本史学 歴史の授業プレゼンテーション（歴史観の形成）、授業アンケート 第14回が終了した時点で、日本史学分野のレポート提出。 第1回～第7回の担当教員：野口舞子（外国史学） 第8回～第14回の担当教員：村石正行（日本史学） 教育実習による欠席分の補講は、課題の提出・添削等で対応する。						
(6)成績評価の方法	・授業の達成目標 の到達度を測る毎回の課題・コメント提出 30点 ・授業の達成目標 の到達度を測る演習への取り組み・プレゼンテーション 20点 ・授業の達成目標 の到達度を測るレポート 50点 必ず外国史分野・日本史分野の両方のレポートを提出すること。どちらか一方の提出のみでは、単位を認定しない。 ・得点率による評価基準は次の通りとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可						
(7)成績評価の基準	・レポートの評価基準は以下の通り。 (i) 問題の設定が適切である。(ii)問題について先行研究をよく調べて言及している。(iii)レポートの形式が適切である。(iv)の既存の学説が提示する解決法を適切に把握し、問題点や限界を指摘している。(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。 (i) から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目まで満たしていれば「やや上にある」。3項目まで満たしていれば「水準にある」。						
(8)事前事後学習の内容	・事前学習：前回授業の資料などを確認して復習を行う。授業内容について調べ学習を行い、予備知識を得る。 ・事後学習：授業で提示した課題に取り組み、コメントや考察を提出する。また、授業内で提示した参						

(8)事前事後学習の内容	考文献を読み、課題への理解を深める。 ・この授業は90時間の学修を必要とする内容である。従って、60時間以上の時間外学習が必要となる。
(9)履修上の注意	・不明点は質問するなど、意欲的に授業に参加することが望まれる。 ・資料の配布、授業の振り返り、レポート提出等で適宜eALPSを利用する。
(10)質問，相談への対応及び連絡先	・外国史：野口舞子（M315研究室、平日在室時は随時） 連絡先：noguchi_maiko@shinshu-u.ac.jp ・日本史：村石正行（長野県立歴史館）
【教科書】	・外国史、日本史とも原則として使用しない。必要に応じて資料を配布する。
【参考文献】	・外国史、日本史とも講義の中で適宜指示する。